

「個別の指導計画」記入例 2

「使った物や脱いだ服等を片付けるのが難しく、人の話を最後まで聞くことが苦手で、順番を待つことに困難を示す」幼稚園年中児の記入例です。

様式 2 は、特に支援や配慮を必要とする指導内容や園の行事を示すようにしています。

様式 3 は、「指導内容・指導方法・手だて等」に、主に支援する教職員を記入しています。

学年・組	年中・組	園長氏名印	担任氏名印	期間
氏名				平成 年 月～平成 年 月

個別の教育支援計画 長期目標 (概ね3年間)	身の回りのことができるだけ自分でできるようになる。 友達と一緒に行動できる。	個別の教育支援計画 重点目標 (概ね1年間)	登園時の片付け、給食の準備や片付けを意欲的に行う。 教員や友達と好きな遊びを楽しむ。
------------------------------	---	------------------------------	---

領域等	幼児児童生徒の様子	年間指導目標	
領域等	聞く・話す・見る	<ul style="list-style-type: none"> ・集団では難しいが、個別に指示されると理解できる。 ・自分の思いを伝えたいという気持ちが強く、人が話をしている途中でも、積極的に話し続けることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員や友達の話落ち着いて最後まで聞く。
	運動・身体	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックを積んで遊ぶことを好み、一人で楽しそうに過ごしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を十分に動かし、苦手なことにも取り組もうとする。
	描く・つくる	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を描くことが好きである。 ・ひもを結んだり、はさみを使ったりするなどの細かな運動がぎこちない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな道具を使って製作活動に取り組む。 ・ひもを結んだりほどいたりすることができる。
	人間関係・集団参加	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、楽しそうな表情で活動に参加するが、友達と手をつないだり、触れ合い遊びをしたりする場面では、遊びに入りにくいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での生活に必要な言葉を使ったり、順番を守ったりする。
	生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕があり、教員が声かけをすれば、衣服の着脱や持ち物の片付けを行うが、使った物や脱いだ服等を、そのままにしておくことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な態度を身に付け、自分から進んで行く。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック、キャラクターカード、ミニチュア人形遊びを好む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい遊びに興味を示し、教員や友達と一緒に楽しむ。 	

学年・組		年中・組		氏名							
領域等	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ね ら い	園や教員に親しみ をもち、喜んで登 園するようになる。 好きな道具や遊び を見付け、楽しく 遊ぶようになる。	教員や友達と一緒に遊ぶ楽し さを知る。 いろいろな遊びに興味をもち、 十分に楽しむ。	友達と触れ合いながら、いろいろな遊び を楽しむ。 友達と言葉を交わしながら遊ぶことを楽 しむ。 戸外で元気に遊んだり、身体を動かした りしながら、秋や冬の自然に親しむ。	自分の思いを出し ながら、気の合う 友達と遊びを楽し む。 年長児になること に期待をもつ。							
	登園後いろいろな 遊びをする。 園庭の遊具で楽し く遊ぶ。 園での生活の流れ を知り、簡単なき まりを守る。 教員に親しみをも つ。 生活に必要な道具 や用具に少しずつ 慣れる。 ・ したいこと、して ほしいことを教員 に伝えようとする。 教員と一緒に手遊 びをしたり、歌っ たりする。 絵本やお話を喜ん で見たり聞いたり する。	自分で好きな遊びを見付けて 遊ぶ。 戸外での遊びを十分楽しむ。 自分の身の回りを自分なりに 片付けようとする。 先生や友達と一緒に楽しく遊 ぶ。 年長児の遊びに誘われて遊ぶ。 身近な草花や小動物を見たり 触れたりして親しみをもつ。 水や土、砂などに触れ、夏の 遊びを楽しむ。 幼稚園の道具はみんなのもの であることに気付く。 先生の話を楽しんで聞いたり、 自分の思っていることを喜ん で話したりする。 身近ないろいろな素材に触れ て遊ぶ。 先生や友達と一緒に歌をうた ったり身体を動かしたりする。	元気いっぱい身体を動かして遊ぶ。 運動遊びに興味をもち、やってみよう とする。 危険な遊び方があることを知る。 上着や手袋などの着脱や片付けを自分 なりにやろうとする。 友達と触れ合いながらいろいろな遊びを する。 好きな友達を誘ったり、自分も仲間に入 ったりして遊ぶ。 身近な自然に関心をもち、自然物を使っ て遊んだり、集めたりする。 道具を独り占めしないで友達と分け合っ たり、順番に使ったりする。 教員や友達と言葉をやりとりして楽し く遊ぶ。 身近な素材で好きな物をつくったり描い たりする。 曲に合わせて動いたり、楽器を楽しく鳴 らしたりする。 お話の筋の展開を楽しみながら、お話 を見たり聞いたりする。	簡単なルールのある 遊びを楽しむ。 教員に頼らず自分 でやろうとする。 自分の思いを出し ながら気の合う友 達と遊ぶ。 年長児に感謝の気 持ちをもつ。 冬の自然に触れて 戸外で元気に遊ぶ。 教員や友達と一緒 に過ごす楽しさを 十分に味わう。 見たこと、聞いた こと、感じたこと などを教員や友達 に話したり、相手 の話を聞いたりす る。 いろいろな道具や 素材に関心をもち、 喜んで描いたり作 ったりする。 友達と一緒に歌っ たり楽器を鳴らし たり、踊ったりす る。 絵本やお話を見たり 聞いたりしながら、 思ったこと、 考えたことを話す。 大きくなっていく 喜びを感じ、いろ いろなことに頑張 ろうとする。							
領 域 等 活 動	始業式 入園式 春の遠足 給食(弁当) 開始	子どもの日 のお祝い さつまいも の苗植え 保護者参観	内科・歯科検 診 親子遊び	七夕 夏祭り	始業式 運動会 祖父母参観	サツマイモ ほり 大根抜き	七五三	もちつき	始業式 団子さし	節分・豆ま き 公開作品展 生活発表会	ひなまつり 会 卒園式 修了式

ゴシック体は、特に個別の支援を行う内容・活動を示す。

学年・組	年中・組	氏名	指導記録				
学期の指導目標		指導内容・指導方法・手だて等	指導の			指導の経過と評価	評価
			目標	内容	方法		
領域	聞く・見る・話す	・椅子に座り、最後まで話を聞く。 ・立ち上がろうとしたときには教員が肩を軽く押さえたり、声をかけたりして座るように促す。 主に補助員が支援する。	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	・話の途中でも、自分の思いを教員に聞いてもらおうと話し出す。	・教員の話の短く区切り、短い時間聞くことから始める。 ・友達に対しても自分の思いを積極的に主張するので、教員が仲立ちになる。
	運動・身体	・歌に合わせて、楽しんで身体を動かす。 ・教員も一緒に動いて誘ったり声をかけたりする。	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	・苦手な活動も一度できると何度も繰り返し返して続けることができた。 ・あまり聴いたことのない歌は、その場で立ったままだったが、教員に誘われると、元気よく身体を動かした。	・身体の動きのパターンを短く、簡単にして繰り返しすることで自信をもたせる。 ・園児たちの好きなTV番組やCMの曲を流して、主体的に身体を動かせるようにする。
	描く・つくる	・はさみで直線にそって切る。 ・弁当の包みを結んだりほどいたりする。 ・昼食時、補助員がそばにつき、必ず確認し、できたときはしっかりと称賛する。	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	・細かい作業では、早く仕上げたい気持ち先走ってしまい、思い通りに切ることができない。 ・一人でひもを結ぶことができるようになったが、ほどこうとすると逆に固結びになってしまふことがある。	・部分的には線にそって切ることができるので、切る長さを短くすることから始める。 ・ひもをほどく前に、教員が少しゆめめておくとともに、どの方向に引けばよいのかを、繰り返し、丁寧に教える。
	人間関係・集団参加	・物を借りるときは、「かして」と言う。 ・順番に並び、順番が来るまで待つ。 ・後ろから来たとき、列の一番後ろに並びように声をかけたり、必要に応じて補助員がそばで本児の思いを聞いたりする。	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	・必要な言葉は分かっているが、使うことが難しい。 ・5月下旬頃から友達とのかかわりが増えるに伴い、トラブルも見られるようになった。	・黙って借りたときに指導するのではなく借りる前に、言うべき言葉を本児と確認するようにする。 ・比較的仲のよい小集団での活動の中で、短い待ち時間から始め、待つことをしっかり経験させる。
	生活	・登園時、持ち物をロッカーに整理して片付ける。 ・食器を正しく持つ。 ・必要に応じて、その都度声をかけるとともに、イラスト等を使って、自分のロッカーが目立つようにする。 ・教員が正しい持ち方を見せるようにする。 登園時と給食時には、園長や主任も支援に加わり、本児の理解(実態把握)を深める。	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	・一人でできる場面が増えてきているが、周囲の幼児が気になることがある。 ・食器を安定して持てるようになってきた。	・今後も継続して声かけを行うが、本児の状況を見ながら、声かけを徐々に減らしていく。 ・家庭と協力して、箸を使う経験をさせるとともに、園で箸を使う場面とスプーンを使用する場面を検討する。

<注1> 指導の形態や指導の場所等については、「指導内容・指導方法・手だて等」の欄に必要に応じて記載する。
 (例)「週1時間は通級指導教室を利用する。」「グループ別の指導を基本とするが、週1時間は個別に指導・支援する」「登園時の活動や集団での遊びの場面では、補助教員、支援員が個別的な支援を行う。」
 <注2> 評価については、指導目標・指導内容・指導方法を必要に応じて1~4で概括し、顕著な部分を「指導の経過と評価」の欄に文章で記述する。
 (例) 4段階評価(4:高く評価できる 3:評価できる 2:部分的に見直しが必要 1:全面的な見直しが必要)